

# ひろがれっと

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】

2022  
第58号



特集

## チームでつなぐ 交代勤務の支援

●アピックス

非接触型ワークショップで  
エコマルシェ参加

●食を通じて地域つながる  
まがながる

友好都市のフェアを通じて

たご糸ねい系

高架下3坪のクラフトビアラボ  
26Kブルワリー

●えすぶれつそ  
ゆとりの魅力

主体的な生活

●笑門来福  
実りの秋に感謝しつづ

松本剛一

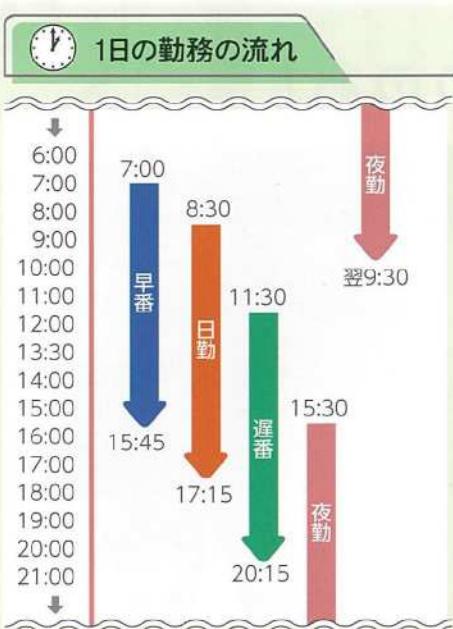
渡邊一樹

## 特集

# チームでつなぐ交代勤務の支援



社会福祉法人武蔵野には、障害・高齢分野とも 24 時間 365 日支援できる体制をとっています。入所施設やグループホームと形はさまざまです。そうした交代勤務の職場では、時間帯により職員が入れ替わり、チームとしての力が求められますが、その分やりがいも感じられます。今回の特集では、職員の連携や工夫により、どのようにご利用者の生活を支えているのかを特集しました。



### 職員の声



井原 晴香さん

平日休みや早番・遅番勤務があることで、プライベートの時間を柔軟に使うことができるようになりました。また、グループのスタッフ全員と直接顔を合わせる頻度は少ないですが、内容に応じて、チャットというツールを活用したり、会ったときに伝え合うようにしたりと、コミュニケーションの取り方を一層意識するようになりました。

### 職員の声



小林 美加さん

4月から働き始めました。交代勤務のいいところは、ご利用者の生活の色々な場面を見ることができることだと感じました。起床・就寝支援等の日中活動以外での関わり・支援を通じ、ご利用者とのことを多面的に理解することができると思ったからです。大変なこともたくさんありますが学ぶことも多く、知識や新しい観点、対応力を得る場でもあると感じています。

支援で大切にしていることは、「『利用者の些細な変化に気づけるようにする』」ということです。わくらすは交代勤務なので毎日違う職員が支援に入ります。せっかく気づいた変化も、他の職員に伝えなければご本人への支援にはつながりません。そこで、気づいた変化を共有・記録をするということも大切にしています。ご利用者の日々の変化の情報は、個別支援計画を振り返るときや作成するときにとっても重要な情報になります。また、他の職員の気づきの視点を知ることで、支援

「情報を全職員に確実に伝えていく」ということが大切だと感じています。  
現在コロナ禍ということも重なり、支援内容や職員の動きも日々変化し、その都度情報もアップ

ます。  
状況の変化に伴って情報量も多くなってしまふので、各職員が最低限の情報は確実に受け取れる環境づくりをすることで、交代勤務職員も負荷少なく勤務できる環境づくりを心がけています。

### 支援で大切にしていること

の幅が広がり、ご利用者との新しい関係性の構築にもつながります。

### 交代勤務で工夫していること



→地図  
P.8-A

わくらすでは、コロナ禍においても環境や人数に配慮をしたうえで、施設長や係長・主任から直接情報を伝える場を設けています。また特に重要な情報は全職員が日につくように玄関のホワイトボードで確認できるようになっています。

## わくらす武蔵野



データ

されていきます。交代勤務なので当日勤務をしていない職員は出勤日に情報をまとめて確認することもあり、把握が十分でないこともあるからです。

# 特別養護老人ホーム ゆとりえ

→地図  
P.8-B

## 支援で大切にしていること

ゆとりえの理念である「人生のラストステージに、あなたが望む生き方を支えます」を実現できるよう取り組んでいます。介護が必要になつても、認知症になつても、慣れ親しんだ地域でご本人らしい生活が続けられるよう支援をしています。ご本人らしい生活とはどのようなものか、何が好きで何が嫌いか、朝は何時に起きて夜は何時に寝るのか等、ご本人の表情や反応から読み取ったり、ちょっととします。

また、ご本人の望む生活を支えるために介護職員同士はもちろん、看護師や相談員、栄養士や医師、言語聴覚士、理学療法士等、さまざまな職種と連携しています。

## 交代勤務で工夫していること

ご本人らしい生活を支えるには、チームケアが必要不可欠です。しかし、交代勤務では職員の出退勤時間も業務内



容もさまざままで、職員間でコミュニケーションをとつたり、情報共有が難しかったりすることがあります。

ゆとりえでは、看取りケアにも取り組んでいるため、職員は夜勤等の変則的な勤務による身体的・精神的な負担がかかる場面もあります。

そのため、日中帯の職員増員・従来の16時間勤務の見直しで、8時間夜勤勤務を導入し、身体的・精神的な負担の軽減に努めてきました。

また、出勤している職員が全員そろう午後の時間帯に、その日の午前中の様子や体調不良者の状況等、情報共有する時間を設けています。また、看取りの方がいらっしゃるときは、支援方針や介助方法を共有したり、今後予測されることや連絡系統を確認するなど、少しでも不安が軽減するよう取り組んでいます。

### 職員の声



花水 三織さん

シフトがさまざまなので、情報の引き継ぎに不安がありました。8時間夜勤を導入し、日中帯に職員・専門職と情報共有する場を確保できることにより、不安が軽減し、視野を広くもつことができました。また、看取りの研修の開催や、ご利用者に状態変化があった際に迅速にカンファレンスを開催する為、情報共有する場が増えて働きやすくなりました。

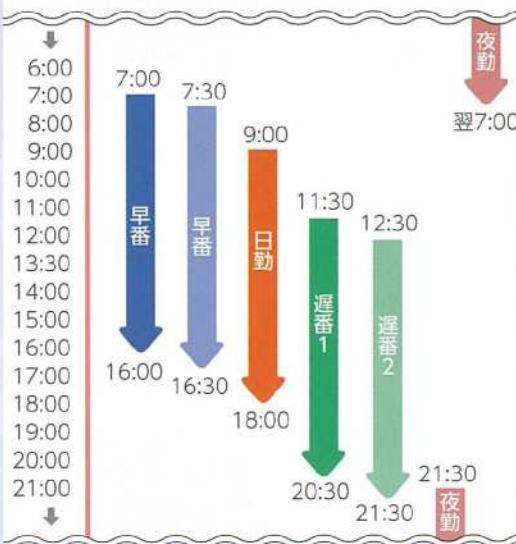
### 職員の声



西野 七夕さん

交代勤務と聞いて初めは不安がありました。情報共有の時間が設けられており、日誌からだけでなく、リアルタイムで利用者の状態を知ることができ、日々利用者の状態に合った支援ができます。また、時間帯によって利用者の違う表情を見ることができるのも交代勤務ならではと思います。

### 1日の勤務の流れ

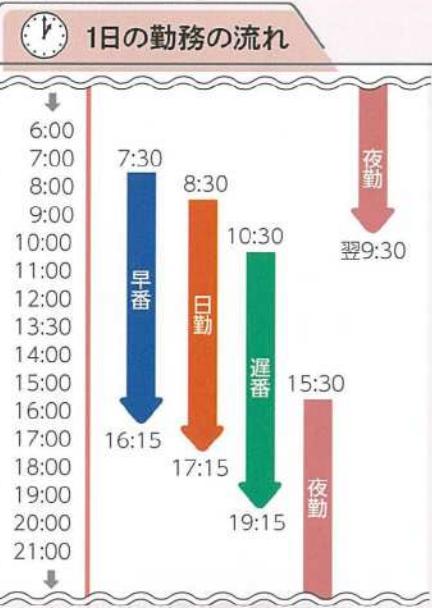


# 居住支援ユニット リエゾン

\*リエゾンは当法人のグループホームの総称です。

支援で大切にしていること

→地図  
P.8-C



## 職員の声

齊藤 伸さん

夜勤者と日勤者が、ご利用者の状況や気づきの情報を共有しながら、職員同士のコミュニケーションを大切にしています。日中活躍するご利用者と出発前に関わる時間では職員は活力をいただき、帰宅後のホッとした表情に職員は和んでいます。共同で生活を組み上げていく楽しさがあると感じています。

## 職員の声

新川 遥花さん

職員配置が一人の時間もあるため、他職員の対応を直接共有する機会が少ない等、不安感もありますが、適宜相談やサポートをし合える環境のため、大変さなどは少なくなりました。また、実際に変則勤務で働いてみて、勤務と休暇のバランスがよく、私にとって働きやすいと感じています。

障害者グループホームでは、ご利用者の自立した地域生活を支えています。重要なことは、一人ひとり生活スタイルが違うことにあり、各職員がそのことを理解し、その方に合った支援を行うことを第一に考えています。ご利用者の暮らし（24時間）を知ることが重要なポイントであり、昨年度から通所事業所との交流研修をスタートさせ、日中のご様子や他の部署の職員の視点から刺激を受け、新たな試みを進めているところです。

また、職員個々の気づきも大切にしています。ご利用者との日常のさり気ないやりとりから生まれた気づきは、日常のコミュニケーションや会議の場で話し合い、共有されます。シフトの引きつきと同時に気づきの情報がつながって、ご利用者の支援に活かされています。

## 交代勤務で工夫していること

法人が運営するグループホームは、武藏野市内4か所に点在しています。各グループホーム間の距離があることや、職員が3交代（早番、遅番、夜勤）または2交代（日勤、夜勤）のシフト勤務により少ない職員同士の異なる意見交換が支援への幅広い視点や、気づきに活かされています。トライアンドエラーは生活につきものですが、職員も実践を重ねて、一人ひとりの取り組みを大切にしながら新たな挑戦をしています。



のなか、一人で支援する時間が長く、配属されているグループホーム以外の職員とコミュニケーションを取る機会が少ないとあります。グループホームの運営課題や疑問を共有することに工夫が必要で、リエゾン組織全体でスピード感をもちながらも、丁寧に問題解決に向かうことが大きなポイントとされています。

## (生活を支える)

生活を支えるということは、ご利用者お一人おひとりが、地域の中で自分らしく暮らし続けることができるよう支援することだと思っています。のために、シフト勤務の中でもとぎれることなく情報をつなぐ工夫をし、支援を展開していきます。そして、ご利用者のさまざまな一面に出会い、それが支援者のやりがいにもつながります。

これからも、より良い生活とは何かを日々考え、ご利用者の人生に寄り添った支援をしていきたいと思います。



だるまの顔入れに夢中の子供たち

(ディセンターふれあい 本川 如子)

梅雨明け猛暑の6月19日（日）、武藏野クリーンセンターで第13回エコマーチェが開催され、わたしたち「つむぐと」は、リサイクル素材のまるまつワークショップを出店しました。

今回久しぶりの対面型イベントへの参加にあたり、これまで行ってきたワークショップに「非接触型・対面形式」を取り入れました。「これは接触による用紙袋に入れて終了、という形式であります。参加費のやりとりもトレイ上で行います。座席には定員を設け、トレイと画材は毎回消毒をしました。

用意した50個のまるまつは4時間ですべて完売。非接触型のワークショップであっても、お話や写真撮影など参加者のコミュニケーションは今まで通り取ることができてほっとしました。

つむぐとが大切にしている「はたらく」「つたえる」「つながる」。Withコロナ時代、つむぐとは「つたえる」方法について考えてきました。新たな方法を模索しつつも、対面でのコミュニケーションの大切さに改めて気づかされた期間もありました。今回工夫をこらしてエコマーチェへ参加できたことは大きな成果につながったと思います。

出来上がったパンの可愛らしい見た目から、販売すると開店前からお客様

が並び、お昼には売り切れてしまうほどの人気商品になりました。その知名度は、さすが伝説。遠野市のかつぱもよろこんでくれたのではないでしょうが。

7月からは同じく友好都市である長野県安曇野市のフェアが始まり、今度は安曇野市の名産である、にじますのモチーフパンを販売しました。これらパンの販売に尽力してまいります。

（ワークセンターけやき 濱田 紗希）



※つむぐとは法人が運営する雑貨屋兼ギャラリーショップです。

## 非接触型ワークショップで エコマルシェ参加

→地図  
P.8-D

感染を極力防ぐため、必要な材料等をトレイにセットし、完成後は持ち帰り用の紙袋に入れて終了、という形式です。参加費のやりとりもトレイ上で行います。座席には定員を設け、トレイと画材は毎回消毒をしました。

**食を通じて  
地域とつながる**

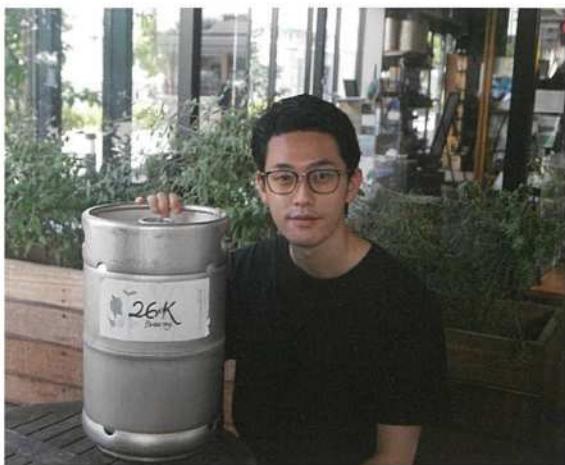
**友好都市の  
フェアを通じて**

● カフェ・ル・ブレ

→地図  
P.8-E



「かつぱくん」と「にじますくん」



ビール担当の平槻さん。ビールの多様性、今後の可能性について熱心にお話ししてくださいました

JR 武蔵境駅から徒歩数分の高架下。わずか3坪のスペースにひっそりと佇んでいるのが、クラフトビール醸造所「26Kブルワリー」。ビール担当の平槻駿一さんから、法人武蔵野（以下「武蔵野」）とのコラボレーションのみならず、地元の人々とのつながりを大切にしたさまざまな活動について聞く

ことができました。

「26Kブルワリー」と「武蔵野」との関わり合いは、麦芽の袋を使ったリメイクバッグ作りから始まりました。「武蔵野」が運営する創作作品ブランド「つむぐと」では、月に約10袋を「26Kブルワリー」から提供していただき、「利用者がトートバッグにリメイクしています。「捨てるだけのものをこうして再利用していただけるのはとてもありがたい」と平槻さん。

ビールはお酒ですから、大人の嗜好品というイメージが強いです。ところが、平槻さんが武蔵境でのビール造りを通して目指しているのは、嗜好品の域を超えた、人と地域の可能性を感じさせるものでした。

「26Kブルワリー」で使うホップの一部は、なんと店に隣接する武蔵境駅の憩いの広場「nonowa terrace」で栽培されています。駅員さんが毎日虫話をし、駅を行き交う人々や小さな子どもたちも、ホップの成長を観察できるのです。

# たて糸

## よこ糸

高架下3坪の  
クラフトビアラボ  
26Kブルワリー

よりよい地域づくりを  
めざして活動している  
団体等を紹介します。



平槻さんお気に入りのイギリス産麦芽の袋。リメイクバッグの材料として「つむぐと」に提供しています

原料の栽培から販売までを可能な限り地域で完結させるというのは、循環型社会の理想の形です。製造過程で出る産業廃棄物の麦芽も、近隣の獣医大に提供し飼料研究の材料に。まさに無駄がありません。自分達が「26Kブルワリー」でどんな活動をしたのか、その完成物をちゃんと残したい」という平槻さんの言葉も印象的でした。

「飲んでおいしいだけじゃなく、『自分もいの』」ルを造った」という体験を皆で共有できたらいいですね。そうしたら「あのときの、あのビール」と、ずっと心に刻まれる一杯になるはず。最後にはそんなビールで、関係者全員で「乾杯！」ができたら」と、平槻さん。

この記事を読んで、武蔵野市生まれのクラフトビールに興味をもたらしたら、ぜひ「26Kブルワリー」へ。武蔵境でしか飲めない味を見つけに出かけてみてください。

（聞き手　社会福祉法人武蔵野　石田　真緒）

# えすぶれつそ

ちょっとひといき♪ 心がほつと温まるスタッフの日常をお届け♪

## ゆとりえの魅力

ゆとりえデイサービスセンター

渡邊 一樹

→地図  
P.8-F



ゆとりえの庭でご利用者とお散歩。この庭もボランティアの方が手入れをしてくれています

いうことです。

今年4月より、特養ゆとりえから、ゆとりえデイサービスに異動になりました。住まいとしての特養と、通いの場としてのデイサービス。どちらも経験したことで、ゆとりえには大きな魅力があることを発見しました。それは、同士のつながりが生まれる場であると

いうことです。  
まず、地域住民のなかにはボランティア活動をしてくださる方がいます。洗濯物やタオル置み、ご利用者との体操やピアノ演奏など、さまざまな活動をしていただいており、ご利用者との交流があります。以前ボランティア活動をされていた方が、ゆとりえのサービスをご利用されることもあり、つながりを肌で感じます。

また、「ハンカチの木バザー」などが開催され、地域住民交流の場として活用してくださっています。特養のご利用者が商品を見ながら「この服いいねえ」と笑顔で近隣住民の方と談笑されています。今年はコロナ禍のため中止になりましたが、再び開催されることを願っています。

地域住民同士の暖かいつながりの場であるゆとりえ。これからもゆとりえの魅力あふれる場の一助となれるよう、信頼感と親和感がある職員を目指して励んでいきたいと思います。



ご利用者と後見人、職員で近況を共有しています

## 主体的な生活

きたまちハウス

松本 剛一

→地図  
P.8-C

きず先回りしてしまうことがあります。

ある時Aさんが、生活のなかで何かに興味を惹かれ、フロアから出て行こうすることがありました。そのとき、じつさに戻るよう声をかけてしまったことがあります。本来ならばそこで「何してご利用者の日常生活を安全にかつ、一日をつつがなく終えることを目標とするあまり、指示的な対応になってしまったり、『日本人の想いを優先で

しまう』などと笑顔で近隣住民の方と談笑されていました。今年はコロナ禍のため中止になりましたが、再び開催されることを願っています。

私たちも、ご利用者の方々が人生の主役であり続けられる、そのための支援提供ができる職員集団で常にあります。

# 笑門来福

## 実りの秋に感謝しつつ

皆さまには日頃より温かい励ましとご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

暑く長い夏が、ようやく終わりました。

季節は移り早や11月。立冬や小雪がすぐそこまで来ている霜月です。

11月と言えば、文化の日、七五三。いい夫婦の日も忘れてはいけませんね。

また、「実りの秋」もあります。この時季の旬と言えば、キノコ類。鍋料理が美味しくなる季節です。ボジョレー・ヌーボーの解禁が待ち遠しい方もおられると思います。

ワインの産地としてはフランスが有名ですが、東欧にもワイン文化の発祥が紀元前4世紀ころと言わされている国があります。温暖な大陸性気候と地中海性気候に属し、明るい太陽のもとでブドウが生育しています。今年の出来はどうだったのでしょうか。以前に新聞で見た「昆虫食」の記事をふと思い出し、調べてみたところ、古代の中国やギリシャ、ローマでセミなどを食べた記録が残っているようです。

地球の人口は2050年に100億人に迫ると言われており、食糧や水資源、環境問題は世界的な課題となっています。

砂漠地帯では、バッタ類が大発生し農作物を食い尽くす蝗害が起きています。規模の違いはあります

が、日本でも発生しています。

国連食糧農業機関は、貴重なタンパク源として肉の代用食となることから、食糧対策の一端を担う食文化として評価しています。

現代社会では一部の地域や民族を除き日常的に昆虫を食べる文化は少数派ですが、最近は北欧のスープーマーケットに昆虫食品が並んでいて人気です。日本も昔から、郷土食としていなごの佃煮や甘露煮などがあり、東北生まれの私にとっては「日常」でした。昆虫の姿や形が残っていると苦手な方も多いため、粉状に加工して食品の材料とするなど事業化・商品化もされています。

食糧やエネルギーなど資源の争いは、戦争や紛争の大きな要因です。争いや災害は貧困の要因でもあります。地域格差や教育格差、経済格差などさまざまな事象を誘引します。

法人も原油価格・物価高騰の影響を受けており、食品・給食部門では食材調達やメニュー・献立など、栄養士や調理スタッフの工夫努力で、ご利用者への負担を抑えています。

先行きの見えない情勢ですが、状況の変化に適切に対応しながら事業を進めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(理事長 渡邊 昭浩)

## 社会福祉法人 武藏野 案内図

各施設は、

- 児童サービス
- 障害者サービス
- 高齢者サービス

に色・書体分けしています。また、Ⓐ～Ⓑは本誌に記事を掲載している施設です。

武藏野市桜堤ケアハウス

軽費老人ホーム  
在宅介護・地域包括支援センター  
放課後等デイサービスパレット  
ハピットサテライト

武藏野市立みどりのこども館  
ウィズ ハピット  
おもちゃのぐるりん

武藏野市障害者福祉センター  
すばる  
ほくと(ゆいと)

かしの木

せきまえハウス

武藏野市役所  
さくらごはん  
Ⓐカフェ・ル・ブレ

Ⓐわくらす武藏野  
なごみの家

北町ほっと館  
きたまちハウス  
りぶる

武藏野福祉作業所  
やさい食堂七福

武藏野障害者総合センター

ワークセンターけやき  
ワークセンター大地  
デイセンター山びこ  
デイセンターふれあい  
地域生活支援センターびーと  
パールブーケ

ゆとりえ

Ⓑ特別養護老人ホーム  
Ⓕデイサービスセンター  
在宅介護・地域包括支援センター  
ゆとりえキッチン



### 編集後記

これからも生活、日中の両場面からご利用者のしあわせをサポートします（さ）